

教科目名 機械基礎論 (Foundations of Machinery)

学科名・学年 : 機械工学科 1年

単位数など : 必修 1単位 (後期1コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 小西忠司 鹿毛正治

授業の概要			
<p>機械工学に興味を持たせる事を目標に、一般の人が最も馴染みの深い機械すなわち自動車を題材にして、機構や原理、それに関する力学の基礎的事項を学ぶ。また自動車に関連した基礎知識を身に付けることで、将来の機械工学の専門科目につながっていく。また、ガソリンエンジンの仕組みに関して講義に演示実験を取り入れること、身近な話題や最新の新聞記事から機械工学に関する話題提供することにより理解を助ける工夫をする。</p>			
達成目標と評価方法			大分高専目標 (B2)
<p>(1) 機械工学の基礎事項を理解し、単位換算や力の合成や分解の計算が出来る。(定期試験) (2) 力のモーメントや力の釣り合いが理解でき、その計算が出来る。(定期試験) (3) 図形の重心や物体の運動が理解でき、その計算が出来る。(定期試験) (4) 自動車の原理と機械工学との関連性が理解できること。(定期試験) (5) 自動車の原理に関係した機械工学の計算により機械的センスを養うことができること。(定期試験)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1, 2	(1) 機械工学で学ぶ学問の概略と機械工学の基礎となる事項	○力学の基礎的計算や SI 単位, 工学単位が理解でき, それらの単位換算が出来る。	【理解の度合い】
3	(2) 車の製造過程と力学の基礎知識	○製造過程が理解でき, 力の合成が出来る。	
4	(3) 力の分解, 力のモーメント	○力の分解が理解でき, その計算が出来る。	
5	(4) 力の釣り合い	○釣り合い条件が理解でき, 計算が出来る。	
6	(5) 物体の重心と図形の図心	○重心, 図心が理解でき, その計算が出来る。	
7	(6) 物体の運動	○物体の速度, 加速度を理解, 計算が出来る。	
8	後期中間試験		
9, 10	エンジンの原理	〈演示実験〉 熱工学へのアプローチ ラジコンカーはなぜ動く? エンジン内の燃焼現象を観察しよう!	【理解の度合い】
11	エンジンに関する計算	〈話題〉 あなたはどんバイクに乗りたい? 身近な原付バイクで燃焼に関する計算をしよう!	
12	冷却装置と燃料噴射装置の仕組み	〈演示実験〉 流体工学へのアプローチ 霧吹き of の原理を知ろう! 燃料は霧吹きと同じ原理で噴射される。	
13	冷却装置と燃料噴射装置の計算	〈話題〉 身近な原付バイクで動力伝達に関する計算をしよう!	
14	動力伝達装置の仕組みと計算		
15	後期期末試験 後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	機械工学に興味を持つようにすることが最大の目的であるので、興味の湧くような内容を選抜して、講義を行う。学生の興味の向く方向へと進める		【総合達成度】
教科書	運輸省自動車交通局監修, 「基礎自動車工学」, 日本自動車整備振興会連合会.		
参考図書	大矢浩史著, 図解雑学 機械のしくみ ナツメ社		
自学上の注意	予習として教科書, 参考図書に関する基礎的事項および語句の学習を行うこと, 復習として演習問題を解くこと.		
関連科目	材料力学 I, 工業力学, 熱力学, 水力学		
総合評価	<p>総合評価は、達成目標の(1)～(5)について2回の定期試験の平均とする。総合評価が60点以上の受講者を合格とする。ただし、総合評価が59点以下の不合格者には以下の措置を講じる。</p> <p>① 総合評価 40-59点 定期試験が60点未満の当該担当教員から指定された課題を提出して合格点に達した場合に合格とする。ただし、合格点は各担当教員の基準による。</p> <p>② 総合評価 39点以下 措置なし不合格とする。ただし本人の不可抗力による入院、事故や病気等の特殊事情を科目担当者が認めた場合は上記①に該当する。</p>		【総合評価】 点